

第1回運動部会議事概要

開催日時：令和7年7月2日（火）19：35～21：20

開催場所：名寄市役所 名寄庁舎第1委員会室

出席者：松澤 大介、清水 幸子、小笠原 志朗、筒井 正敏、桑内 寿則、松浦 修司、
金澤 秀和、大沼 広明

1 開 会

2 部会長の選任

- ・事務局案の通り 部会長 松澤委員 選任

3 議 事

事務局：議事（1）「令和7年度夏からの拠点校部活動」、①「拠点校部活動の実施について」、②「拠点校（案）について」の説明。

N委員：令和8年に地域展開を控えているなか、未だに学校が主体で考えられており、地域がないがしろにされている。また、顧問が地域と連携するのを拒んでいる印象を受けている。学校と地域が協議をする場があって拠点校の開始が望ましいと考えるが、協議をする場がないまま、令和8年度夏からの地域展開はスムーズにいくのか。

事務局：令和8年夏からの休日の地域展開に向けての拠点校方式であるが、拠点校部活動はまだ学校教育活動の範疇であるため、学校主体で動いている。

N委員：一部の顧問が自分で指導を行いたいから、生徒のためといいながら、自分のやりたいように指導を行っている印象を受けている。その上で、生徒の指導を十分に行えていない話も聞いている。今後の展開については、この部会で道筋を決めて地域の団体と連携した取り組みを進めていくよう議論させていただきたい。

事務局：受け皿となり得る地域の団体とは昨年に引き続き意見交換の実施を計画している。学校との連携が足りないということも課題として聞いているため、今後、学校との連携を行えるよう進めていきたい。

D委員：学校から地域に部活動を委ねたくないという意識を持つ顧問はいないと認識している。校長間で拠点校部活動について話し合った中でも、地域に展開する令和8年の夏にどういう姿になっているのか学校も顧問も見えていないという話になった。学校としても地域といつからどのように関わられるかわかっていない。令和8年夏に向けてなのか、その先の持続可能な体制に向けてなのか、議論をしながら進めることが必要だと考えている。

K委員：拠点校については、地域団体から見ると、急に決定したように見える部分もある。この部会で協議して決定できる事項がないように感じるが、この部会の中で学校と競技団体との議論する場を設定することも考えられる。

H委員：今の話を聞いていると学校教育活動の拠点校部活動については学校間で決めることであり、部会で決めることはないように感じた。この部会では、拠点校案を踏まえて今後どのようにスムーズに進行できるかを話し合うということでもいいのか。

事務局：拠点校案はあくまでも学校間の議論で出た案を事務局から提案させていただいている。学校の代表や保護者、地域団体の代表が集まっているこの部会で協議を行っていただきたい。

H委員：男子ソフトテニスやバレーボールなど拠点校が2校となっているが、拠点校の人数差が大きく、少人数だと満足な活動ができないと感じる。拠点校を1校にしない理由をお聞きしたい。

D委員：名寄中、名寄東中は、物理的に距離があり、移動が困難であるため、活動場所の問題も考慮している。また、令和8年に地域展開する際のイメージがないため、今の段階では、あくまでも部活動の範疇でという認識のもと相談してきている。

H委員：部活動学校間バスは使えないのか。

事務局：部活動学校間バスについては、平日の利用は可能である。

K委員：基本的に拠点校は1校にまとめる方向であるため、学校間の距離を問題にしてみようと、拠点校の実施自体進められなくなるのではないかと。

D委員：智恵文小中や風連中への移動はタクシーを利用している。距離の問題を無視して拠点校を1校にするのは、移動の観点で無理があるのではないかと。

K委員：本来はバスがピストン運行する計画であるが、利用人数が少ないため、タクシーを利用しているだけであり、各部活動で乗りあって移動することもできるはずである。

A委員：目指すゴールとしては全種目拠点校を1つにすることなのか。

事務局：現在、決まっていることは令和8年夏から休日に部活を行わないということである。拠点校部活動は、平日は学校部活動、休日は地域で活動となった際に、学校と地域が連携しやすくなるように各学校にある部活動を拠点校に集めるものである。ただし、部員が多い部活動については、1校に集約することで活動自体が困難にな

るため、拠点校を複数配置できることとしている。ソフトテニスについては、男女合同で練習を行っているため、実際には各拠点校の部員数が極端に少ないことはないと考えている。

K委員：事務局の説明を聞くと、将来、地域に展開した際、1つで活動するのであれば、できる限り今の段階から拠点校を1校にするべきではないのかと感じる。

D委員：地域展開に向けて、拠点校は1校が望ましいということは顧問も認識を持っている。ただ、受け皿が確定していないことや受け皿が2つになる可能性も考えられるなど具体的なイメージがないなかで、話し合いを行ってきている。

N委員：私は昨年から地域のなかで競う環境を作る観点から、単独でも活動できる部活動を含めたすべての部活動を1校の拠点校にすることに反対してきているが、地域への展開をスムーズに進める観点では、拠点校が1校なのか2校なのかで大きく変わってくると考える。また、休日に指導を希望する顧問が地域の団体の一員として指導に関わることも想定されているが、今の段階から学校と地域で連携を図らないと一貫した指導が行えず、生徒が困ることになる。そのため、早い段階で部活動と地域団体は並走を始め、連携を図る必要があると考えている。

A委員：拠点校案に地域クラブの存在が見えない。受け皿のイメージが見えなければ学校と地域団体の擦り合わせは進まないのではないのか。

I委員：今年入学した1年生の多くが野球部に入部せず、「NABBC」に入団していることを聞いている。「NABBC」であれば1年生から中体連に出場できると思い入団したが、「NABBC」は中体連に参加できなかったと聞いた。同じようなことが他団体でも起きないように話し合いたい。

K委員：中体連の出場要件は各競技ごとに設定されており、公開されている。拠点校については、まずは拠点校案のまま進め、部会の中で学校と地域団体の話し合いの場を設けたい。

H委員：年度途中での拠点校数の変更はあるのか。

K委員：年度途中での変更は想定していない。

H委員：拠点校は案の通りで進めるとして、令和8年の夏を見越した時に学校や地域団体を含めたワークショップのような交流の場があれば、学校とのスムーズな連携が生まれるのではないのか。

K委員：拠点校を2校から1校に集約していくには、相当な時間を要するため、拠点校案

はそのまま進め、私としては競技団体と顧問のつながりを作るワークショップ等の機会を部会として設定するのが1つの案であると考える。

Q委員：風連中学校が剣道の拠点校となったのは、競技団体の上部組織である名寄地方剣道連盟が子供たちのために、学校に拠点校として活動を働きかけたからである。少年団などの団員や保護者が1番心配しているのは、中学校に入った時の活動がどうなるかである。その際に上部組織が話をまとめて学校に働きかけた方が学校は動きやすい。そういったことも含めて、競技団体は組織全体で話し合いを進めるべきだと考えている。

K委員：競技団体主体で一つになって取り組みを進めるのはいい方法である。Nスポーツコミッションのジュニアスポーツエコシステム形成事業とも関連がある内容であると思う。

F委員：名寄東中のバレー部については、美深の少年団と合同で練習を行っている。名寄市の中だけでも運営が難しいと思うが、周辺自治体と協力し合う観点も少し意識できればいいと考える。

K委員：拠点校案についてはそのまま進める形でよいか。

事務局：議事（2）「令和8年度からの休日地域クラブ活動について」、①令和7年度検討スケジュールについて説明。

K委員：先ほどの議論を踏まえると学校と地域の連携があまりないように感じる。

事務局：最終的な受け入れ団体が決定したのちに活動のすり合わせをしていくイメージでいる。

N委員：拠点校部活動について顧問間だけで調整されているので、このまま顧問が地域の団体の一員として休日も指導すると言われたら地域団体との協議すら発生しない可能性がある。

K委員：地域に部活動を委ねたくない顧問はいないとのことなので、前向きに議論を行いたい。

N委員：地域団体と部活動顧問の話し合いの場は必要だ。

事務局：競技団体との意見交換会において、クラブへの支援策、受け入れ可否や課題などについて話し合い、第2回の部会の議題として挙げる予定だ。その中で競技団体の方から、先生と話をしたいという意見があれば、話し合いの場を設定したいと考え

ている。

N委員：競技団体との意見交換、教職員との意見交換と分けるのではなく全体で集まって話し合う場を作ってほしい。分けるのであれば、それぞれ話し合いの結果がわかるようにしてほしい。昨年、顧問の7割は部活動を頼まれてしぶしぶやっていると伺った。指導を行いたい職員は3割しかいないなら、拠点校部活動になったときその7割は指導の場からいなくなるのか、それとも指導を続けてもらうのか。その人たちが現在受け持っている部活動からすぐ地域移行したいという話にはならないのだろうか。

D委員：拠点校部活動と地域展開については、こういった形になるのかは学校も知りたい。管理職として職員に説明する責任がある。名寄市としてどのような方向性で進むのか見えるようにしてほしい。そのうえで関わりたい先生、関わりたい先生が出てくるだろう。

K委員：令和8年夏休日地域移行というゴールはぶれずにしっかり定めなければならない。その意思確認を行う場としても競技団体と学校の先生方の話し合いが必要だ。部会で話し合う課題を炙り出すためにも第2回部会までにその場を設けたい。

Q委員：競技団体が中心となって学校の先生方と話し合うべきだ。そうでなければ学校だけに負担がかかってしまう。地域展開となっているのに、引き継ぐ地域団体がないと子どもが放り出されてしまう。また、部活動のイメージだけで進めてしまうと、子供から大人までの生涯スポーツという話につながらなくなってしまふ。各競技団体から、拠点校部活動や地域展開についてこうあるべきだという提案をすることが大事ではないか。

K委員：中学部活動がなくなると将来的な競技人口が減少するため、競技団体にとっても死活問題だ。ジュニアをどう育成していくかということについては、今は過渡期であるために難しい問題も多いが、大人の対応をしなければならないと思う。やはり第2回部会までに一度、学校の先生方も含めて話し合う場を設けるべきだ。

H委員：第2回部会までに競技団体との話し合いの場を設け、アンケートや情報交換の場を作ることで部活動顧問の話も聞き、その結果を第2回部会で確認したうえで競技団体と部活動顧問の意見交換を行うという形がよいのではないか。一生懸命部活動を教えている先生によっては、指導の場を強制的に奪われるという印象を持つかもしれない。部活動の指導をしたくて教師になった方もたくさんいるだろう。部活動顧問をふくめた地域展開のためのワークショップを開いていくとよいのではないか。

D委員：名寄中学校では地域展開という言葉しか使っていない。地域移行という言葉のイ

メージから考え方を変えなければならないということは教員ごとに温度差はあるものの全員で共有している。また、子供たちをどのようにスポーツ、文化に触れあえる機会を考えており、そこに参加したい先生は地域の人として参加すればよいというイメージは伝えている。競技団体の方々との話し合いの場を作ってもらいたいのは学校も同じだ。

K委員：スケジュールについては再考しなければならない。ゴールをしっかりと決めて、早い段階で競技団体と学校のマッチングの場を設置したい。

D委員：学校のスケジュールとしては、4月の新年度スタートから見て、2月には令和8年度部活動イメージを確立させ各教員に説明しなければならない。地域展開について概要を示しながら説明できる状態だとありがたい。

K委員：具体的なスケジュールについては教育委員会と再考することとする。

事務局：②「運動部活動の地域移行の基本的な考え方について」、③「競技団体の課題に対する対応方針や支援策について」の説明

I委員：平日の部活動費と土日の地域団体の会費を払わなければならないという認識でよい。

事務局：その通りだ。

I委員：認定クラブ制度では、中体連参加条件のクリアまで市で助成してもらえるのか。

事務局：認定条件に中体連参加条件の達成を含む予定はない。そのクラブが中体連に参加できることを周知してほしいということであればその手伝いはできる。大会などは目指さないクラブ、専門的指導を行うクラブなど、クラブごとに特色があるだろうから差別化の観点でも認定条件に入れるつもりはない。

K委員：大会は中体連だけではないため、中体連の基準に合わせて指導するよりも別の大会にたくさん出たいという価値観もあるかもしれない。安心安全な環境を提供する制度設計は必須だが、認定条件については部会で詰めていけばよいのではないかと。

H委員：同じ競技の地域クラブ2つが同じ時間に活動している場合、子どもはどちらのクラブに参加しても問題ないという理解でよい。

事務局：その通りだ。子どもたちがどこを選ぶかという話だ。

K委員：地域展開について、中学校の部活がそのまま地域で行われると考えている人と、

地域クラブの活動に中学生が参加すると考えている人がいて、意見の共有が難しい。

D委員：地域展開がうまくいくのはクラブベースの考え方で、この先も持続可能ではないか。極端な話、学校の部活はなくなり、地域クラブに乗っかっていって、そこに学校の教員も関わりたい人だけが関わるというのが子どもたちにとって1番幸せな形だと、個人的には考える。

H委員：地域に受け皿となるクラブがあるという前提で話が進んでいるが、受け皿がない競技については、現在中学校に指導を頼っている形になる。しかし顧問も異動があるため、顧問がいるうちに中学校で指導方法を教わって新しい受け皿を作るというスタンスも必要ではないか。

K委員：競技団体が自分事として考える必要がある。Nスポでは部活がなくなることで自分たちの競技団体で一本化するように動くほうがスムーズだった。学校に頼る形にしない方がいいというのが個人的な考えだ。

F委員：子どもたちのイメージは、中体連は3年最後の試合で、これが終わったら受験モードという区切りになっている。中体連を目指さないクラブがあるなら何らかの区切りを作ってあげるべき。

D委員：将来的には区切りという考え方も無くさないといけない。スポーツは子どもたちが自分自身で選択して取り組むものとなり、習い事として教育から完全に切り離していくのが将来的な方向性だと考える。

A委員：土日だけではなく、月曜日はサッカー、火曜日にはピアノというような習い事のイメージで考えている。ヨーロッパではそれが普通で、受験があろうと自分の責任で活動や選択をすればよい。

D委員：すぐにはその意識にはないだろうから、私たちの立場としては、F委員の述べた区切りの設定についても必要だと考える。地域に受け皿がなければ週末にできなくなるスポーツもあるため、様々な可能性を含めて早期に話し合いたい。

K委員：課題対応や支援策について意見はあるか。

I委員：バドミントンのクラブ団体は昨年では受け入れが難しいとのことだが、活動形態としてはどうなっているのか。

K委員：バドミントン協会は積極的に受け入れているわけではないものの中学生も含めて20人程度で活動している。ただ昨年の意見交換では基本的に受け入れは難しいという回答だ。

Q委員：競技組織のトップが受け皿として子供たちを成長させて組織を大きくするという意識がない。上部組織が、環境を整え指導員をしっかりと確保するよう強い意識をもって活動しなければならない。

K委員：今までの議論から、競技団体を主体とした制度設計を行うべきだと感じている。今後の話し合いの中で最終的な方向性を決めたい。

事務局：④「競技団体との意見交換会について」の説明

K委員：競技団体と教育委員会との個別の意見交換会は昨年度も行っているのではないか。

事務局：競技団体、部活動それぞれの話を聞いた上の話し合いが必要だと考えている。競技団体については、平日の夜に進める形で日程調整を始めている。7月中の日程で行う予定だ。

K委員：意見交換会には学校も交えたほうが良いのではないか。もしくは学校も含めて全体で集まるのが良いのではないか。ただ、その前に部会内で話すテーマやゴール設定のすり合わせが必要だ。

D委員：日程的に夏休み期間は集まりにくい。8月19日以降の日程であれば可能かもしれない。令和8年度夏土日地域展開できる競技について、顧問と話し合いを始めるというイメージでよいのか。競技団体での話し合いを夏休み明け前に行っていただき、夏休み明けに学校も含めて話し合うという形がよい。

H委員：競技団体同士で土日の地域展開について、共通意識をしっかりと作らなければ学校を交えて話し合ってもまとまらないだろう。

N委員：極端な話、学校と競技団体のすり合わせが行われず、とりあえず来年の夏からは部活は土日に行われぬ。競技団体は土日やっているから自由に参加してくださいとって、学校はまったく関係ないという形で進めることもできるが、困るのは子どもたちだ。地域団体が令和8年以降に向けて動いても、顧問が受け皿として動かれたらうまくいかない。そのため、事前に連携を行う必要がある。

D委員：大切にしたいのは、名寄市としてどう子どもを育てていきたいかだ。そのビジョンに向かって学校も最大限協力したい。

N委員：競技団体もどこまで準備していいのかがわからない。何年か前に市長の名前を出して、トップダウンで各競技団体に対して準備を始めるよう指示を出してほしいと言ったが、それはできないとのことだった。準備をするにしても、本来であれば顧

問と一緒に話す機会を競技団体で作らなければいけないが、そこまでたどり着いていない団体が多く見受けられる。

K委員：競技団体主体で地域クラブ化し、参加したい教員には合流してもらい形が良いのではないかと。いち早くできる場所は中途半端に週末地域移行ではなく、完全地域移行を目指すのがよいだろう。

N委員：昨年も部活動をやりたくない7割の部活を教えてくれれば地域移行に踏み出せる競技団体もあるのではないかと。情報の早期の共有をお願いしたい。どのようにどれくらい準備を行ったらいいかかわからない。学校側との密な情報共有をしたい。

K委員：拠点校案は原案通り進める。部会のスケジュールは再考の必要がある。競技団体と学校のすり合わせの場を用意する。地域展開に向けて競技団体主体の地域展開を進め、学校もそのつもりで準備するという形で決定でよい。

D委員：学校職員への情報の落とし方はどのようにすればよい。

K委員：部会の内容をそのまま伝えていただきたい。オープンにしていけないと共通認識が得られない。

事務局：議事録はホームページで公開されるため、学校職員の方々もそちらをご覧ください。

D委員：教育委員会から教職員向けに資料の提供があるとありがたい。私とF委員がそれぞれ学校で説明をするとニュアンスの違いが出てくるのが心配だ。

事務局：後ほど公開される議事録の共有に代えさせていただく。そのうえで各所属団体に内容の共有をお願いしたい。

4 閉 会